

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 11

### 天恵の名水「うちぬき」が育む“水の都・西条”

愛媛県 西条市長

いとう こうたろう  
伊藤 宏太郎



平成16年11月1日、愛媛県東予地方に広がる道前平野に、旧西条市、東予市、丹原町、そして小松町が合併し、新しい「西条市」が誕生しました。

約509km<sup>2</sup>もの面積を誇る市域の平坦部には、西日本最高峰の石鎚山を主峰とする石鎚山脈が源流である、2級河川の加茂川や中山川をはじめ、中小の河川が貫流しています。

それらの河川の表流水が地下に伏流して、全国的にもまれな被圧地下水の自噴地帯が、広範囲にわたり形成されていますが、その地帯では15~20メートルの鉄パイプを打ち込むだけで、良質かつ豊富な地下水が自然に湧き出してきました。市内各所に散在する、その自噴水や自噴井は「うちぬき」と呼ばれ、古くから人々の喉を潤すとともに、多くの山海の幸を育み、そして酒造や手すき和紙など、数々の利水産業の興隆を促してきました。

まさしく本市が「水の都」と呼ばれる所以であり、

昭和60年に環境庁（現環境省）から「うちぬき」が「名水百選」に、また、平成7年には国土庁（現国土交通省）から、本市は「水の郷」に認定されています。

こうした土地柄を背景に、本市では「水の都」の名に恥じることなく、ボランティアによる水源の森づくりや、市街地の水系の一斉清掃を行うなど、市民・事業者・行政が一体となって、地下水や美しい水環境の保全に取り組んでいます。

また、産学官連携により、工場等から排出される廃熱と本市の地下水を、それぞれ温熱源、冷熱源として利用する「省エネ型冷凍システム」の開発を推進するなど、水に秘められた無限の可能性を活かす試みにも着手しています。

市内外から訪れた人々が街角で、ペットボトルやポリタンクを手にして「うちぬき」を汲んでいる—ここ“水の都・西条”では、そのような風景が今日も見受けられます。



四国のみずべ八十八カ所「武丈公園と加茂川」



「名水百選」に選定された自噴井「うちぬき」



四方を水堀に囲まれた旧西条藩陣屋跡